

平成27年度を振り返って

教職センター長 今 崎 浩

昨年11月22日、本学で開催いたしました「第56回中・四国保育学生研究大会」におきましては、広島市こども未来局局長様をはじめとする来賓の皆様、そして、日頃より保育士を志す学生の指導にあたっておられる先生方の御支援・御協力を賜り、何とか当番校としての役目を果たすことができました。保育士養成を所掌しております教職センターを代表して、心より御礼申し上げます。

大会後、御参加いただきました先生方から、ボランティアとして大会運営の手伝いをしてくれた学生の振る舞いや対応について、多くのお褒めの言葉をいただき、それらが私の耳にも届いてまいりました。早速、先生方からいただいたお言葉を学生に伝えたところ、大変満足そうな表情を見せてくれました。私事になりますが、研究大会開催に向けては、開・閉会式や研究発表の企画・運営、開催要項や発表要旨集の作成といった仕事の他にも、業者との交渉、会計に関する事務等、想像以上に多くの仕事がありました。本学では、それらの仕事について大学教員と大学職員が連絡・相談を繰り返しながら行ってまいりました。そうした連携・協力なしに、このたび研究大会の開催はなかったものと考えております。

平成27年12月21日に中央教育審議会から示されました「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）」では、これからの学校の在り方として「チームとしての学校」という考え方が示されました。今後、学校は複雑化・多様化した様々な課題に対して、個々の教職員が個別に取り組むのではなく、学校のマネジメントを強化し、組織として課題解決に取り組む体制を創り上げることが求められることとなります。

教職センターとしては、このたびの研究大会への取組を通して、我々教職員が「チームとしての学校」の在り方を実感するとともに、教職を志す学生に対して「チームとしての学校」の具体的な姿を見せることできたと考えております。

今後も、教職センターは「チーム文教」の一員として、学生に対してあるべき姿を見せるべく、組織的・協働的な活動を一層充実させてまいります。

平成28年1月